

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	富山市恵光学園		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 15日		～ 令和8年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	111人	(回答者数) 99人
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 15日		～ 令和8年 1月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・必要に応じて、保育士・作業療法士・言語聴覚士・児童指導員など多職種による連携を行っており、専門的な療育を実施している。	・多職種の職員と連携しながら、お子さんに合った支援を考えている。必要に応じて、作業療法士や言語聴覚士に直接お子さんの様子を見てもらい、その場で保護者に対応方法などを伝えてもらっている。	・引き続き、多職種と連携を図りながら、お子さんに合った支援の方法を考え支援していく。 ・個々の職員のスキルアップ及び統一した療育を実施できるよう、研修や話し合いの場の頻度を上げていく。
2	・活動内容が固定化しないように工夫している。	・お子さんたちの理解を促すために、同じ活動を2回以上は続けて行っているが、同じ活動の中でも、内容や支援量を変えて支援している。 ・グループごとに課題内容を検討し、ステップアップできるよう工夫している。	・経験の幅を広げてあげられるよう、様々な活動を考えて提供していく。
3	・年長児とその保護者に対して、小学校に向けた授業体験や就学説明会を開催している。	・児童指導員(教員経験者)と一緒に通常級や支援級の授業を体験することで、小学校に向けての期待、憧れ、意欲を引き出している。 ・保護者に対しては、就学説明会を行ったり、授業体験の様子を見てもらったりすることで、就学までの見通しや、学校・学級選びの手掛かりになるようにしている。	・相談しやすい環境を設定し、保護者の不安や悩みを丁寧に聞いていく。 ・先輩ママ・パパや相談員から話を聞く場を提供するなど、検討していきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・基本的に月2回の利用のため、保護者や子どもからの信頼を得られるのに時間がかかる。	・次回の教室までに間隔が空いてしまう。そのため、お子さんや保護者が職員と信頼関係を築くための関わりを十分に重ねることが難しくなる。	・必要に応じて、電話やメールでも相談を受け、療育日以外にもフォローしていく。 ・職員間で情報共有をしっかりと行い、支援方針にブレが出ないように統一していく。
2	・保護者同士の交流の機会が少ない。	・平日開催のため、働いている保護者にとっては、時間を確保して参加することが難しかった。 ・開催日が少ないため、都合が合わないと参加が難しかった。	・普段の教室時に保護者で交流する機会を設けたり、開催回数を増やしたりするなど、検討していきたい。
3	・小集団療育のため、認知面での個別の支援が難しい。	・小集団療育のため、一人のお子さんにじっくり時間をかけて関わるのが難しい。	・お子さんの発達課題に応じて、課題内容や支援方法などの個別の配慮を工夫していく。